

1 調査結果の概要

（1）小学校：学校質問紙

全国値と比べ顕著な差があった項目

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」、「よく行った」「どちらかといえば、行った」等を合計した肯定的な回答の割合の差が20ポイント以上あった項目）

※①は「その通りだと思う」「よく行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）、②は「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）

【プラス項目】

「調査対象学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。」

（【週に4回以上行った】－3.0、【週に2～3回行った】＋30.8）

「調査対象学年の児童に対して、理解の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか。」

（【年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った】＋11.1、

【年間の授業のうち、おおよそ1/2以上、3/4未満で行った】＋14.7）

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」

（①＋13.3、②＋33.0）

「調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」

（①＋24.4、②＋4.9）

「調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。」

（①＋25.7、②＋9.4）

「調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」

（①＋20.8、②＋4.8）

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか。」

（①＋37.7、②＋13.3）

【マイナス項目】

「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

（①－7.7、②－22.0）

「調査対象学年の児童に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。」

（①－16.3、②－13.1）

（2）中学校：学校質問紙

全国値と比べ顕著な差があった項目

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」、「よく行った」「どちらかといえば、行った」等

を合計した肯定的な回答の割合の差が15ポイント以上あった項目)

※①は「その通りだと思う」「よく行った」と回答した割合の全国値との差(ポイント)、②は「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の全国値との差(ポイント)

【プラス項目】

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。」

(【週に1回程度、または、それ以上行った】+24.2、【月に数回程度行った】+40.4)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。」

(【基本的に毎週行った】-0.8、【月に数回程度行った】+22.5)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか。」

(①+31.6、②-9.6)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか。(①+15.3、②+6.4)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用した授業を行いましたか。」

(①+45.0、②+13.6)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用した授業を行いましたか。」

(①+38.2、②+9.0)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、理科の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用した授業を行いましたか。」

(①+26.0、②+20.1)

「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。」

(①+32.4、②-10.6)

「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」

(①+15.9、②+23.3)

「調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。」

(①+5.9、②+15.3)

「教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか。」

(①+18.7、②+5.8)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。」

(①+33.8、②+7.4)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか。」

(①+17.5、②+8.3)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。」

(①+23.1、②+11.4)

「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか。」

(①+22.6、②+7.7)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。(国語/数学共通)」 (①+69.5、②-48.0)

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。」 (①+47.7、②-20.9)

「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。」 (①+0.4、②+22.0)

【マイナス項目】

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けましたか。」 (①-39.9、②+9.7)

「調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。」

【年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った】-19.0、【年間の授業のうち、おおよそ1/2以上、3/4未満で行った】-6.3)

2 学校質問紙の調査結果をふまえて

○小学校は、全国値を顕著に上回るプラス項目が多い。

(プラス項目：7、マイナス項目：2)

教科を問わず、授業中に限らず放課後等を使い、補充的な学習や発展的な学習を行っている割合が高いことから、各学校が児童生徒の実態に合わせて指導の工夫をしていることがわかる。特に、理科においても宿題を出す割合が高く、国語・算数だけでなくその他の教科についても家庭学習の充実を図っていることがわかる。

これからは、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりする授業づくりが求められる。また、学校図書館を計画的に活用することで、読書はもちろん探求的な学習を充実させていくことが必要である。

○中学校は、さらに全国値を顕著に上回るプラス項目が多い。

(プラス項目：18、マイナス項目：2)

中学校はプラス項目が多く、他地域より取組が進んでいることがうかがえる。

特に、教科を問わず情報通信技術を活用していることがわかる。ICT機器を多く使い視覚的な手がかりを多く提示することは、ユニバーサルデザインの授業を行うためにも効果的である。

また、地域の人材を外部講師として招いたり、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれており、学校・家庭・地域が連携して取組を進めていることがうかがえる。

朝の読書活動などの一斉読書の時間を設けている割合が全国平均と比べ低くなっているが、生徒質問紙からわかるように、読書量の二極化が懸念される中、学校での読書のきっかけ作りが求められる。